

海のブランド物語

vol.11

NEXUS
Passion for Performance™

文=安藤 健(本誌) 写真提供=ネクサスマリン
text by Ken Ando (Kazi), photos by Nexus Marine AB

ネクサス

NEXUS

ヨットやボートの世界には、ポートビルダーはもちろん、機器やセール、ウエアに至るまで、歴史ある海のブランドが数多くある。自然という厳しい現場の中でもまれ、ユーザーの期待に応えてきたからこそ、信頼を勝ち得てきたのだろう。当連載では、そんな世界のマリンブランドの数々を取り上げ、あまり知られていないそれぞれの歴史を紹介していく。今回は、スウェーデンの電子機器メーカー「ネクサス」。新進のブランドながら、その背景には長い歴史を持っている。



シルバがヨットレーシングの世界への参入を機に立ち上げたブランド「ネクサス」は、2006年に分離独立。その名前は、すっかり世界中のセーラーに浸透しつつある

THE HISTORY OF NEXUS

1933	スウェーデンのシェルストレム兄弟たちが、世界初の分度器機能を持つ液体充填式コンпасを開発。シルバ社を創業した。
1948	初めてのマリンコンパスを発表。
1981	初めての電子航海計器(インストルメント)である「1000シリーズ」を発表。各方面で大きな注目を集めめた。
1987	さまざまなデータを同時に表示できるなど、機能が大きく向上したダイレクションシリーズを発表。
1993	ネクサスマリンとして、レースの分野への本格的な参入を開始。NX2シリーズを発表。
2001	VHFをラインナップに加える。
2003	ネクサスマリンとして、レースの分野への本格的な参入を開始。NX2シリーズを発表。
2006	ネクサスマリンとして、シルバから分離独立。同時に、シルバのマリン関連製品については、世界総販売元となった。
2007	NXRシリーズを発表。
2009	経営権が、ニュージーランドのリチャード・マカリスターとディーン・バーカーの手に委譲された。

源流はスウェーデンのコンパスメーカー

プレジャーボートに限らず、海を走るすべての船にとって、自分がいる位置を正確に把握することは何よりも大切だ。GPSが広く普及した現代では、その作業は実に容易になったとはいえ、ナビゲーションの基本は変わらない。自分の進んでいる方角(針路)や目的地の方角を知るために、また、GPSが使えない場合のツールとして、コンパスが必要品であることに変わりはない。

そんなコンパスの世界で、マリンのみならず登山などアウトドアの分野、さらに測量や軍用といったプロユースを含め、世界ナンバーワンのブランドとして知られているのが、スウェーデンのシルバ(SILVA)

だ。1932年、シェルストレム(Kjellström)兄弟たちは、世界初となる機能を持つ液体充填式コンパスを発案し、同社を創業した。その新製品とは、「分度器機能を備えたコンパス」であり、真北(0度)を知ることしかできなかった従来のコンパスに対して、進む方向の数字も瞬時に把握できるようになった。この商品とほとんど変わらぬ機能を持つ製品が、現在も同社のラインナップに並び、多くのユーザーに愛用されている。

一躍トップブランドとなったシルバが、マリンコンパスに本格的に取り組み始めたのは1948年以降のこと。エンジンの振動に強いブラケットを備えたパワーボート向けのモデルや、セールボート向けに関しては、レースからクルージングまで、用途に応じてさまざまなタイプが開発されていった。

マリンの世界でも着実にファンを獲得していったシルバは、さらにラインナップを拡大する。1981年、初めての電子航海計器(インストルメント)である「シルバ1000」を発表。当時の製品は、スピードや水深、風向、風速といったものを数字で表示するだけのシンプルなものだったが、コストパフォーマンスの高さが特徴で、ドイツの『Yacht』誌で「コンパスグランプリ」を受賞するなど好評を博した。

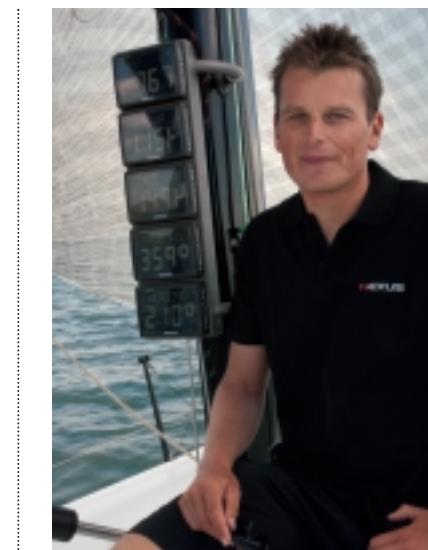
インストルメントについては、時代とともに機能はさらに多種多様となり、1987年には、複数の情報を同時に表示するダイレクションシリーズがヒット。1993年に登場したネクサスマリンでは、各種計器間でのネットワークを構築できるようになり、もはやコンピューターと呼んでもいいほどに進化していく。2003年には、NX2シリーズを引っ提げて、レース艇市

場にも本格的に参入することを発表。さらに2006年には、廉価版のNXシリーズを投入するのに合わせて、インストルメントを扱っていた部門が、ネクサスマリン(Nexus Marine AB)としてシルバから分離独立した。

経営に参画するのはトップセーラー

ネクサスマリンとして独立した後も、シルバのマリン関連製品の世界総発売元としてパートナーシップを築いている。2007年にはハイエンドモデルであるNXRシリーズを発表。2005-2006年のボルボ・オーシャンレースではオフィシャルサプライヤーになるなど、グランプリレースの世界にもネクサスの名前は完全に浸透した。前身のシルバ時代を含めると、すでに30年以上の歴史を有するだけに、インストルメントメーカーとしての技術の蓄積は十分だろう。

そんなネクサスマリンにとって、独立から間もない2009年に大きな転機が訪れた。同社の経営権が、キウイヨッティング・コンサルタント(Kiwi Yachting Consultants)を主宰するリチャード・マカリスター(Richard Macalister)と、ディーン・バーカー(Dean Barker)の二人のニュージーランド人の手に移ることになったのだ。マカリスターは、プロセーラーとして、1980年代以降にウッドブリッジ世界一周レースに2度参戦したほか、ワントンカップやシドニー～ホバートレースといった数々の国際外洋レース、さら



左:2009年にネクサスの経営権を握る一人となったディーン・バーカー。エミレーツ・チームニュージーランドのスキッパー／ヘルムスマンを務める、現役バリバリのトップセーラーだ
上:ハイエンドモデルのNXRシリーズを搭載したグランプリレーサー。ボルボ・オーシャンレースに代表される、過酷な最前線で育まれたノウハウが詰まっている。バックライトは赤(写真)か緑を選択可能



ネクサスのオーナーの一人であるリチャード・マカリスター(右)と、日本での輸入販売を手がけるノルディックスポーツ代表の浦上智康氏

にはエド・ペアードのクルーとして長く国際マッチレースサーチットを転戦するなど、凄腕のセーラーである。一方のバーカーは、前回のアメリカズカップでスキッパー／ヘルムスマンを務め(エミレーツ・チームニュージーランド)、現在もACワールドシリーズで活躍中の、世界でも指折りのトップセーラーだ。

そんな二人がトップに君臨する会社だ



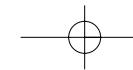
パワーボート向けのマリンコンパス「100BC」(価格:39,900円)。水平面と垂直面のどちらにも取り付けが可能で、LED照明を内蔵している



セールボート向けの製品の一つ、「103PE」(価格:33,600円)はデインギーレーサー向けで、それぞれのタックでの違いを読み取ることで、ヘッダーやリフトが分かる



シルバの名前を世界に知らしめた「分度器機能を備えたコンパス」は、現在多くの人に愛用されている。写真は「エクスペディション」(価格:5,250円)



でもこなれた製品を提供することで、たくさんの人たちにセーリングをもっと楽しんではほしいというのが願いです」

そう話すのは、シルバ時代から30年にわたって日本での輸入販売を手がけてきた、ノルディックスポーツの浦上智康代表。同社では、日本語版の製品マニュアルを作成するなど、ユーザーに対するサポートも丁寧に行っている。現在、ネクサスでは世界80カ国以上に販売ネットワークを築いている。

さらなる進化を続けるインストルメント

次に、ネクサスの現在のラインナップについて紹介したい。看板アイテムであるインストルメントは、クラブプレーヤー向けのNX2シリーズ、基本性能を抜き出した入門モデルという位置づけのNXシリーズ、大きな表示画面(ジャンボメーター)が売りの、グランプリレーサー向けハイエンドモデルであるNXRシリーズの三つから構成される。

いずれも、各計器が集めた情報をリンクさせることができるのが特徴だが、NX2シリーズを例に取ると、「NX2スピードログ」(スピード・ログ計)、「NX2ウインドデータ」(風向風速計)、「NXマルチコントロールXL」(マルチファンクションディスプレー)というのが、個々の製品群。もちろん、スピードログ計や風向風速計は単体でも使えるが、これらの製品に加えて、GPSの情報をサーバーに集約させることで、マルチコントロールに一步進んだ情報を表示させることができる。情報は、VMGやCOG(対地針路)、SOG(対地速力)など30種類以上にも及ぶが、なかでも注目すべきは、タクティカルファンクション(TAC)と呼ばれる機能。スタート前にタッキングアングルを設定しておけば、レース中にヘッダーやリフトといった風の触れが瞬時に把握できる。

数々の情報があるだけに、いちいちボタンを押して切り替えるのも大変だと思う向きもあるようが、表示したい情報はユーザー自身でカスタマイズできる上、電源



NX2マルチコントロールの表示部。1台の計器に、サーバーに接続された各トランスポンサーから得た情報が表示できる



NX2ウインドデータの表示部。ロゴトランスポンサーとの組み合わせで、真風向や真風速、VMGの表示も可能だ



NX2のサーバー本体。ここに各トランスポンサーから得た情報が集まっている。いわば、システムの心臓ともいえる部分だ



アナログ表示仕様のリピーター(表示部)が、風向風速計(写真)のほか、コンパス、スピード計、ステアパイロットにも用意される



ハイエンド機種のNXRシリーズは、大画面とタフな性能が自慢だ。黒バックに白文字か、白バックに黒文字の2タイプから選択できる



サーバーに集めた情報を、専用のソフトを使ってパソコン上に表示させることも可能だ。画面内により多くの情報が表示できるので、レーザーには便利

を落とした後でも最初に表示されるようにできるので心配無用だ。また、風向風速計などは、メーター表示のアナログタイプも用意されているので、変化を視覚で捉えたい方にはいいだろう。

エントリーユーザー向けには、NX2シリーズから基本的な機能を抽出したNXシリーズが用意されている。特筆すべきは、風向風速計のセンサー部であるウ

インドトランスポンサーに、ワイヤレス仕様が用意されていること。これだと、マストトップから配線作業を行う必要がなくなるというメリットがある。また、ログ、水温、水深のトランスポンサーが一体化したトリプルトランスポンサーも用意されているので、これを使えば船体に穴を開けるのが1ヵ所で済む。



レースをやらない

艇の場合、ここまで装備は不要だと考える人もいるかもしれない。しかし、例えば風の変化一つ取っても、感覚だけに頼ることなく、変化の傾向を数字で確実につかむことが可能になる。安全面を考えても、メリットは大きいといえるだろう。自分の使い勝手に合わせて、いろいろな計器を組み合わせていくことも楽しいはずだ。

[問い合わせ]
ノルディックスポーツ
〒372-0021 群馬県伊勢崎市
上諏訪町2112-19 セビア1stビル102
TEL: 0270-27-9505 <http://www.nordicsp.com/>

